

「防災・福祉のまちづくり」の訴えに共感広がる 伊藤誠を先頭に、公約実現に向けてがんばります

注目の新潟県議会議員選挙、日本共産党は長岡市・三島で竹島良子候補が議席を確保したものの、新潟東区では渋谷明治候補が38票差の次点、上越市区では伊藤誠候補は2845票で最下位という残念な結果となりました。

伊藤誠選対本部は11日、「県議会議員選挙の結果について」という声明を発表しました。そこではまず、「市民のみなさんの期待にこたえることができなかったことに、選対として責任を痛感しています。日本共産党と伊藤候補にお寄せいただいた支持者、後援会員、党員みなさんのご支援・ご協力に、心からお礼を申し上げます」と感謝の言葉をのべています。

前回得票を大きく下回る得票となったことについては、「起意表明が年明けにずれ込み、他候補に出遅れるという状況ではありましたが、4人の候補を擁立してたたかった前回市議選時の後援会員に依拠し、その力を借りれば展望が開けることを示し、他陣営に追

い着き・追い越すために、候補を先頭に全力で頑張ってきました。また今冬の豪雪、東日本大地震と長野県北部地震という災害に際しては、ただちに現地調査を行って行政に対策を求めめるなど、『国民の苦難軽減』という立党の精神に立った活動を展開してきました。そうした中で、少なくとも有権者の中に日本共産党と伊藤誠候補への共感を広げることができたと思えます。しかし、候補の知名度不足を克服するには至らず、さらに多数立候補からくる一票をあらそう激しい党派間の組織戦が展開される中で、共感を支持に変えることはできませんでした」と分析しています。

そして最後に、「今選挙で得票が大幅に後退した要因を洗い出し、弱点を克服して、年内にも予想される総選挙、そして来年4月の市議選での躍進・勝利に向けて、体制をととのえていきますので、引き続きのご支援・ご協力、そして忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願いいたします」と訴えています。

今回の選挙は、東日本大震災という未曾有の災害を受けたたかわれまは、「防災・福祉のまちづくり」を中心に訴えてたが、議選で掲げた公約を実現めざして奮闘してまいります。



選挙事務所で開票結果を待つ伊藤候補

2011年県議選開票結果

矢野 学	当	15,631
榆井辰雄	当	15,625
梅谷 守	当	15,160
小林林一	当	11,552
小山芳元	当	9,990
市村孝一		9,226
近藤彰治		5,956
滝沢一成		4,588
伊藤 誠		2,845

5月5日は恒例の「山菜料理を楽しむ、市政を語る会」

今年も恒例の「山菜料理を楽しむ、市政を語る会」を開催します。飲食物の持ち込みは歓迎です。ただし、アルコール類を飲まれる方は車での参加をなさぬようお願いいたします。

日時：5月5日15時から
場所：橋爪牛舎脇広場
参加費：1000円。

ただし、山菜料理や飲み物をたくさん持ち込まれる方、子どもさんは無料。

当面、新潟県地域防災計画及び上越市地域防災計画の見直し問題で、市民のみなさんのご意見をお聞きし、計画に反映させるべくがんばりますので、よろしくお願ひします。



「小黒橋」と書いて「こぐるばし」と読みます。安塚区を流れる朴ノ木川にかかった橋です。橋の近くには真宗大谷派の寺院として有名な専敬寺があります。先日、このお寺の伝道掲示板を見たらの、上越市内在住のポストカード作家、宮越友里さんの詩が書かれていました。
あなたが愛してくれ
たから
あなたが
必要として
くれたから
今、私は
ここに
小黒橋の
橋長は約10
メートルで
す。竣工は
1964年
(昭和39
年)12月。

シリーズ 上越市内の橋 第60回 小黒橋

春よ来い 第一四九回 姉と妹(4)

春祭りの日。青空が広がって、とてもいい天気になりました。市役所での仕事が終わって家に戻ると、母も公民館から戻ってきています。「よし、きょうこそは板山の伯母のところへ連れて行ってあげよう」そう思っただら、母は大喜びでした。

母はこの日、先日拾ってきた栗を使って赤飯を炊いていました。すでに用意してあった生のフキノトウと佃煮、それと赤飯もパックに入れ、吉川区の山間部を通って大島区板山に行きました。

「ばちや、来たよ」と声をかけると、台所から伯母が顔を出し、「さあさ、入ってくらさい」。茶の間に入って、母はすぐに炬燵の上に土産物を広げました。「こりや、フキノトウ。それから、こりや、フキノトウの佃煮。フフフ。おまんに持ってきたが、これ、ばちやへの祝い」紙に包んだものを一つひとつひろげています。「ばちやへの祝い」というのは赤飯です。

お茶を飲む前から二人のおしゃべりがはじまりました。

「浦川原の医者のとこへ行って来たがど。ちよつと『遅い昼飯』(遅い昼飯)になつて……。いつときひんね(昼寝)しようと思つたら、地震が来てそ」

この日は長野県北部地震の余震が何度も続きました。母は伯母の話に直接応じませんでした。久しぶりに見た伯母の顔の様子に気がなつたのです。

「顔、ふくんているがねが。はれつぽいど」

「手足、両方ともしゃつこくて、死んだがみていだ。おら、いつ死んでもいいでも、忙しくねえ時でねえと」

「おら、じちやも冷たかつたがど。血の巡りじゃねえか」
「布団の中でさんざ、もんじやくつて……。そうしると、暖かいがど」

伯母は続いて、持ち込んだ土産物について言いました。

「きょうは何にもごつおしねでいいなえ。初もん、いっぺもらつて……。これ、この間の栗かえ。雪が消えた中から栗が出たなんて、おら、初めてだ……」

話の途中に、いきなり「ドン」と家が揺れました。また、大きな余震です。話はまた地震に移りました。伯母が聞いてきた話を盛んにします。

「きょうも、『吉野屋』に、『杉』に、田麦のしょも一緒になつた。杉のかちや、いま一人だろ。地震の時、高田の子どももしよ、連れていぎなつたげらだ」

「菖蒲のあたりのしょ、この間の地震で、やつと出たしょもあつたど。大平や住宅に入っているしょもある。地震で(家が)かたがつて出ように出れねえかつたがど。戸も開けらんね。大平の特養のほうへ頼んでいて、三つ泊つてきたと」

「死んだっていいでも、どこへ逃げりやいって(うちの者に)訊いたら、このでっけえ柱につかまっていりやいってがど。そんで、サッシ開けて出りやいって」
突然、思いつくことがあるのでしょうか。伯母と母の話は急にかわります。

「おまえ、何年?」「おれや、ネズミ」「へび?」「ちがう、ちがう、ネズミだ」
「ネズミか……。そうだろうと思つた」

耳が遠いこともあって、二人の会話は時々、漫才のようになることがあります。でも、この姉と妹、ほんとうに仲がいい。おしゃべりを聞いていて、そう思いました。帰る時も、伯母は玄関の外まで見送りに出てくれました。腰を曲げて、じつと妹の様子を見る姉。片方の手をひざにのせ、いつまでもバイバイをしていました。

吉川小学校で入学式

「元気に挨拶をしてください」と八島校長がお願い

上越市では6日、7日と市内の小中学校で入学式が行われました。私は6日午前には吉川小学校、午後には吉川中学校の入学式に参加してきました。このうち、吉川小学校の様子をお伝えします。

吉川小学校の今年度の新入生は54人。1年生のクラスが2クラスなのは今の4年生が入学した時以来のことです。

担任の先生が先導して新入生が体育館に入ってきました。新一年生は緊張気味でしたが、担任の先生は笑顔でした。うれしそうでしたね。

お祝いの挨拶にたった八島幹雄校長は、新入生に向かって、「おめでとうございます」と声をかけたあと、新1年生にたいして「2つのお願い」を訴えられました。

ひとつ目は、元気な挨拶をしてほしいということ。「朝起きた時、昼間人に会った時、家に帰った時などちゃんと挨拶をしてほしい。挨拶は人の心と心をつなぐ魔法の言葉です。挨拶で周りの人に元気を分けてあげてください」とのべられました。



名前を呼ばれて元気に返事をする新入生

二つ目は、学校でやったこと、あったこと、見たこと、家の人に話してほしいということです。「お家の人はみなさんが学校で何をしてきたか楽しみにしています。学校では、自分の気持ちを相手に伝えることがとても大事です。みなさんはもう一年生ですから、自分の口で言ってください」と呼びかけました。

児童を代表して歓迎の言葉をのべたのは吉藤琴音さんです。吉藤さんは、「学校では、楽しく遊べるし、みんなと仲良くなれます。わからないことがあれば何でもきいてください。明日から楽しみに登校してください」と呼びかけていました。